

れたピラの文句に、嘘はなかったと思った。

戦後新憲法が施行され、これによって教育制度指導方針も変わり、子供も教師と対等に自由に話が出来た時代になった。かつて私達が受けた様な厳しい指導はなくなり、児童生徒も伸び伸びと勉強に専念出来る事は幸せである。日本は戦後の廢墟の中から立ち上がり、国民生来の勤勉さが世界に誇る経済大国を作り、私達は平和で豊かな日本に生まれ合せた幸せを感じる今日であるが、先般賛否両論で内外に物議を醸し成立したPKO法案でも、両論いずれも平和を希求するものであり、四十七年目の終戦記念日を迎え改めて当時を憶い、先の大戦で三百余万以上の尊い人命を犠牲にして得た平和で美しい日本の国土、この素晴らしい国土を再び戦火に晒してはならない。世界各地で今もつて絶えない地域紛争のニュースが放映される度に、悲惨な状況が痛々しい。PKO法案成立で自衛隊の海外派遣も可能になるというが、先の大戦の反省の上に不戦平和を理念とした日本国憲法が生まれた。間違っても二度と再びあの様な愚かな戦争に巻き込まれる事のない様、全世界の恒久平和を心から願う者の一人です。

『私の昭和二十年八月十五日』

渡 辺 豊 光

私は当時、浦代国民学校高等科二年生であった。校長は前年四月から木立出身の武田先生、担任は佐伯出身の笠村先生であった。

戦争はたけなわで、銃後の小国民にとつては必勝の信念しかなかった。グラントは主食の芋・麦を植える畑に変わっていた。木立出身の農民学校長の指導で木炭を焼いたり、稲作をし堆肥を作る。農家の手伝いや奉仕作業をする。いろいろなことを教えられ働かされた。古い教育を受けていた私たちは叱咤激励と受けとめて、反つてこの校長は人情家だと威厳に恐れてもいたが、反面なつているところも多かった。

校長の指導で炭焼き竈をグラントの隅に造り、浦代峠から元越山の大火で焼け残った立ち枯れの桜を生徒が鋸でひき、大八車に大勢取り付いて学校まで運び木炭を焼いた。

また、百姓仕事の奉仕に出たり、堆肥を作るため草や柴を刈りに、田鶴音から楠の浦の東までの間山野と畑を

かけめぐって、行かぬ所通らぬ道は無いくらい駆け歩いた。

米機動部隊の空母から飛び立ったグラマン戦闘機等から、機銃掃射を浴びせられたのが三月十八日だったかと思う。そのあと浦代本校も小竹分校も、陸軍の兵隊が本土防衛のために進駐してきて、生徒は学校を出てお宮やお寺、役場の会議室等で分散授業をしたが、余り長い期間ではなかったと思う。

いつごろからか授業は余りなかったが、作業の合間に松根油の採取を始めていた。軍用機の燃料不足を補うために代用品として使用するというので、いたるところの大きな松の木は、ほとんどの幹に竜骨形の溝が刻み込まれ、下に受け皿の竹筒がつけられて松ヤニが集められた。五・六人が一組で割り当てられた木が十本くらいあった。ばらばらに離れて立つ松を廻って缶をもって集めて歩いた。私たちの割り当ては浦代東の藤九郎山であった。午前と午後の二回、毎日山に登って採集し役場会議室の土間に四斗樽をすえて貯めていた。終わり頃には七合目くらい入っていたように思う。

敗戦思想など思いもしなかった。大人の噂話を耳に

したことはあったが、物識りの人が知人から聞いたと言つて、「負けそう」とか言つたということに耳にする。と、みんな嫌つてその人を避けていると聞いた。

Sのおいさんがトラック島に行つていた時海軍が空襲を受けて、酷くやられたという噂があった。原子爆弾が投下されたことは報道されなかつたのか、終戦後になつて聞いたと思う。マツチ箱程の大きさで絶大な威力を持つ小型爆弾を、日本が開発中であるという話は聞いたことがある。米軍の飛行機が宣伝ビラを多数落としていたことがあつたけど、拾つて見てはならないといわれ見なかつた。後でそのビラをどう始末したか覚えていない。八月九日ソ連が参戦したというのを聞いたときは大きなショックで、悲愴な気持ちになつたのを覚えてい

る。

八月十五日の正午に重大放送があるということは前日から知らされていたと思う。十五日の正午、役場の村長室に置かれたラジオで外に整列して放送を聞いた。ラジオの感度が悪くその時は何のことが判らなかつたが、後で日本が負けたということを知つた。友達が聞いてきて教えてくれた。声を立てて泣いている人があつた。涙が

出て声を出さなくてもみんな泣いていたと思う。

もう松根油を集めに行く必要もないがと思ったが、先生は何も言わなかったか行けと言ったか今は忘れたが、又藤九郎山に登って集めて帰った。あの松根油はどうなっただろうかと思うが……。

その年の十月頃には同級生の中から二人、海軍航空少年兵が何かに入隊することが決まっていたと思う。戦争に負けたので行かなくてすんだが大変な時代だったと今では思う。その時は行かない自分に氣遅れがして、堂々と胸を張れない氣持ちだった。

最近、当時担任だった笠村先生から、軍から学校に「生徒を○人(兵隊)出せ」と何度も強制的な割り当てが来て困った。口実を作って出さなかったが、という話を聞いた。

戦争に負けて悲しかった。

嬉しいなどは全然思わなかった。

純真な戦中派の少年であった。

しかしその後は空襲で防空壕に逃げる必要がなくなつた。灯りを煌々とつけることができ、こわさがなくなつた。

忠君愛国を叩き込まれた少年の私たちにとって、教育とは恐ろしいものだと思う。今は自由主義の教育で日本人を駄目にしたともいえる。教育は大事なことだと改めて考えさせられる。

日 帰 り 研 修

日 時 4月8日(土)
行 き 先 大野川流域の史跡をめぐる
集 合 場 所 弥生町役場裏駐車場へ8時30分まで
弁 当・飲 み 物 は 各 自 持 参
車 は 乗 り 合 わ せ